



平成20年7月22日

先週17日、播州小野経営者漁火会の勉強会に参加してきました。

ビデオを見た後、飛行場の歴史に詳しい上谷昭夫さん(66)の話をお聞きしました。鵜野飛行場は出陣のための九州の飛行場と関東の中間地点ということで当時はたくさんの方々が飛行機が行き来していたようです。昭和18年10月に飛行場が完成、姫路海軍航空隊が開隊しました。搭乗員養成のための最終飛行訓練基地でした。長さ1200メートル、幅60メートルという規模で、隣接地には川西航空機(現・新明和工業)の工場が建てられ、戦闘機「紫電」「紫電改」を組み立てた。滑走路は練習飛行のほか、ここで完成した戦闘機の試験飛行にも使われました。

その後、戦局がますます切迫し、南の海では特攻が始まりました。同航空隊でも昭和20年2月になると特攻隊「白鷺(はくろ)隊」を結成、特攻訓練を開始。ここで訓練を受けた若い兵士も3月に宇佐航空隊へ進出、5月4日までの5度の出撃(攻撃機21機)で63名が沖縄近海の米艦目掛けて突っ込み、散っていききました。隊員たちは出撃に際し遥か故郷の愛する家族らに別れをつげ、再び還ることなき特攻に若き命を捧げ、武人の努めを全とうしたのでした。

ここ鵜野はそんな別れの場所として思い出を抱えて今も生きておられる方々がたくさんいらっしゃることもお聞きしました。

### 北条線列車転覆事故

昭和20年3月31日、鵜野飛行場周辺で試験飛行していた戦闘機、紫電改がエンジン故障で不時着。その際旧国鉄北条線(現・北条鉄道)の線路に接触してゆがめ、直後に通過した列車が転覆。乗客死者11人、負傷者104人の大惨事となりましたが、当時事故原因が戦闘機である事実は伏せられました。2年前、同線網引駅に慰霊看板が設置されました。

私は終戦後20年も後に生まれ、父は戦時中の生まれなので、父から戦争の話を書くこともなく育ってきましたが、上谷さんの話で印象に残ったことが2点ありましたので記させていただきます。

この国の教育が戦国時代、江戸時代などずっと過去のことは詳しく勉強させるのにたった60年前の戦争のことをあまりに軽視しているということ。この悲惨な戦争の実態を理解し今生きている自分たちが「使命を受けて生かされている」ということを自覚することが大切。ということでした。

これからの時期、戦争に関するTV番組や映画などが多く放映されると思いますが、私の子供たちにも見るようにすすめたいと感じました。

また鵜野飛行場にも子供たちを連れて行きたいと思います。

多鹿会計事務所 所員 平戸



滑走路脇に建立された平和祈念の碑。戦死者の氏名や飛行場の歴史などが記されています。

メール

お電話でのお問い合わせは平日午前9時～午後5時まで承っています。

多鹿会計事務所

〒675-1332 兵庫県小野市中町320-8 TEL 0794-62-5666 FAX 0794-64-2037

